

留学体験記

国際文化学科 2年
21017027 岡畑亮太

私は昨年8月末から1月7日まで約4ヶ月間、中国の北京師範大学に留学しました。現地で自分が感じたことあるいは、忘れることのできない思い出をできるだけすべてを書きます。

まずは私が忘れることのできない思い出について紹介します。現地に到着して、約一週間後に現地の日本語学科である中国人との交流がありました。各グループに分かれそれぞれが考えてきた出し物を披露しました。自分のグループはオタ芸を披露しました。正直、人前で踊ることの経験が無いので最初は恥ずかしさがありました。その恥ずかしさをなくすため必死に練習に励み、観てくださる方々のためにももっといいダンスをしようと心がけました。本番ではみてくださった方に気持ちが伝わり、最高に盛り上がり披露してよかった、このメンバーで踊れて良かったと思いました。ここから自分の留学が改めて始まったと実感しました。交流会では三人の日本語学科の中国人学生と仲良くなり、それが今では本当に素敵な出会いをしたと思っています。

次に自分が考えたこと、感じたことについて鮮明に覚えていることを書きます。私は交流会で出会った友達とその友達で休みの日は多くの観光地にできるだけ足を運びました。その友達には本当に心から感謝しています。目的地へ向かう途中、道ばたに痰を吐く人が年配の男性に多くみられました。自分にとってはとても衝撃的でした。冬にはその痰が路上で凍り、なんとも言いがたい気持ちになりました。しかしそれとは別に中国の交通機関は非常に便利でバス、地下鉄、タクシーなど、どれも安価で観光地へアクセスしやすいと感じました。そのため、どこの観光地も大勢の人で賑わっていました。また、電車内やバスでは年寄りや子供に席を譲る行為を何度も目にして、自分のなかにあった中国のイメージが一変しました。

中国での生活を約4ヶ月過ごし、あまり生活面で困ったことはありませんでした。でも最初の数日間は苦労しました。現地に到着してから数日は食が合わず、新たな環境によるストレスもあり時々、軽い腹痛を起こしていました。そのため、ほぼ毎日同じ物を食べ、偏った食生活を送っていました。だけど留学二ヶ月目頃には現地での生活に慣れて、様々な料理を楽しむことができました。自分の知らない料理を食べ、個性的な料理にも挑戦しました。中国料理は基本的に濃い味付けで少し脂っぽいものが多く、また香辛料が強い料理も多いため、胃に負担がかかり、身の回りで体調を崩す人いました。食べ慣れていないものは無理をしない、これは現地の食生活で大事だと思います。

今回の留学で、中国語を使って様々な国のクラスメイトや中国人の友達と会話ができ貴重な経験を得ることができました。日本との違い、新たな発見、五感を通して感じることができました。次回中国へ行くときは、今回行けなかった他の地域に訪れたい。